

# 平成28年度経済建設文教常任委員会行政視察報告

1 視察日 平成28年7月12日（火）から14日（木）まで

2 視察地及び視察項目

(1) 岩手県二戸市（面積420.42km<sup>2</sup>、人口約28,800人）

・このへブランド海外発信事業について

(2) 秋田県大館市（面積913.22km<sup>2</sup>、人口約76,500人）

・バイオマスを活用した産業振興について

(3) 秋田県鹿角市（面積707.52km<sup>2</sup>、人口約33,200人）

・子どもが輝く学校教育の推進について

3 出席者

委員長	宮本 妙子
副委員長	伊藤 幹夫
委員	藤田 欽哉
委員	佐貫 薫
委員	中村 久信
委員	渡邊 孝一
委員	今井 勝巳
委員	大貫 雄二
随員	相馬 香織（議会事務局副主幹）

4 視察概要

(1) 岩手県二戸市（7月12日（火）13:30～15:00）

「このへブランド海外発信事業」と題されるこの取り組みは、地域産業の活性化を図るため、二戸市と民間企業がタイアップし、世界の流行の中心ともいえるニューヨークを拠点として「このへブランド」を海外に発信し、それを国内にもフィードバックさせることで、同市の魅力を国内外にアピールしようとするものです。

今回、二戸市が地元ブランドの代表として掲げたのは、「地酒」と「漆器」でした。

二戸市の地酒「南部美人」は、過去にモンドセレクションでグランドゴールドメダルを受賞するなど海外での評価も高く、現在では、世界28か国へ輸出されているということです。

また、二戸市浄法寺町は、漆の国内生産量のうち約70%のシェアを誇るだけでなく、漆の採取から漆器の製造までを一貫して行っている漆器産業の代表地域です。この「浄法寺漆器」も、2011年のグッドデザイン賞で中小企業庁長官賞を受賞

するなど、国内では一定の評価を得ており、栃木県においても、日光東照宮の修繕に二戸市の漆を使っているということです。

3万人都市でこのように市をあげて海外に発信している事業は非常に珍しく、メディアにも取り上げられました。

市の特産品を海外にPRし、評価してもらえることは、住民にとっての愛着や誇りに直結し、特に若い世代の地元への関心を高める取り組みでもあると感じました。現在も後継者不足に悩まされていますが、特に漆塗りの職人は若い世代から職人を希望し、独立に繋がっている点は興味深く思いました。

今後は、地域おこし協力隊や職人による後継者の育成、漆の木の栽培に対して補助金の拠出などを考えているということです。また、将来的には、ヨーロッパも視野に入れているということです。

また、「トップが訴えることが重要」とのことで、国や県の支援を受けながら、市長が海外でのPRに力を入れておられ、それが「～ちいさなまちの大きな挑戦～」へと繋がっていると感じさせられました。



「宝物は足元にある」（東京大学月岡教授談）、まさに、それを実践された事業です。

矢板市におきましても、地場産業の後継者不足や、企業の衰退などの問題が山積しています。人を育て、人を根付かせる。国や県と連携しながら市としてサポートできる施策を展開していかなければならないと痛感させられました。

## (2) 秋田県大館市（7月13日（水）13：25～15：05）

大館市は、森林面積が約80%という緑と田園に囲まれた街であり、比内地鶏やえだまめ、きりたんぼ、大館曲げわっぱ、秋田杉桶樽など、豊かな緑由来の技術と食文化を育ててまいりました。また、稲作中心の農業、秋田杉関連産業、鉱業（非鉄金属）などの産業が市を支えてきましたが、基幹産業の衰退により、関連産業への波及など地域経済基盤崩壊の危機に直面し、新たな産業の創出・雇用の確保が大きな課題となり、環境リサイクル産業への転換を図りました。

「リサイクル」をキーワードとし、捨てるものを使う、地域資源を循環させるというコンセプトのもと、平成20年度にバイオマス利活用に向けた取り組みに着手し、平成21年7月31日に「大館市バイオマスタウン構想」が国から認定されました。

- ・生ごみと鶏糞、籾殻から良質な堆肥を製造し農地に還元するコンポスト事業。
- ・比内地鶏の鶏糞からペレット堆肥を製造し農地に還元する「ヒナイドリームセンター」の設立。
- ・市民組織や給食センターから植物性廃食用油の提供を受けBDF（バイオディ

ーゼル燃料) や粉石けんを精製し販売する廃食用油の利活用。

- ・生活排水処理汚泥の脱水ケーキ等を資源化物に製造し循環型社会の構築に貢献する秋田県県北地区広域汚泥資源化事業。

これらのリサイクル産業の振興により、地域経済の活性化に貢献し、地域循環型社会の形成に努めております。

また、里山が抱える課題克服に着手し、地域資源である木材の一体的な有効活用を推進するため、公共施設への木質バイオマスボイラー導入や、1/2補助金(上限20万円)による民間導入を推進するなどの施策を展開しております。

これにより、市では年間6,000トンから7,000トンの二酸化炭素排出を削減し、カーボンオフセットクレジット(J-VER)活用で、平成24年から平成27年の4年間で約4,300万円の収入を得ております。

バイオマスタウン構想は、まちづくり構想であり、地域内のネットワーク、地域内単位で社会の仕組みを再構築することです。

人の立場や職業は、既存の仕組みで位置付けられていますが、異業種連携による新たな結びつきや役割を自覚することが、バイオマスタウン構想のスタートではないでしょうか。

地域には人材がいなると言われ、コーディネーターが不在とも言われます。地域の活性化には、新たな考え方や規制にとらわれない人材を称して、「よそ者、若者、ばか者」が必要と言われますが、市民やリーダーの意識改革が重要となってきます。

バイオマスタウン構想の意義は、市民全体による将来像を共有し、どのような「まち」をいつまでに目指すかを明確にし、市としての利潤の最大値を数値化し、「夢を形に変える」ことにつきます。

市民が、幸せに、持続的に暮らしていける、そんなまちづくりが求められると感じさせられました。



### (3) 秋田県鹿角市(7月14日(木) 10:00~11:35)

秋田県は全国学力・学習調査で1位をとるなど、教育に力を注ぎ、平成5年度から「ふるさと教育」を推進していることでも知られています。

その様な中、鹿角市においては、教育費支援事業、かづの夢創造school事業、かづのふるさと・キャリア教育推進事業を推進しております。

教育費支援事業では、少子化対策、子育て支援の観点から保護者の経済的負担を軽減するため、第3子以降の児童生徒の学校教育に係る教育費を助成するものです。

かづの夢創造school事業では、児童生徒にフェアプレー精神や助け合うことの重要性を教えるとともに、夢や目標を持って生きていこうとする態度を養い、仲間と協力して課題や目的を達成することの充実感や、夢や目標を持って生きるこ

とを大切にす児童生徒を育てる目的として、日本サッカー協会に委託し、トップアスリートに「夢先生」となってもらい、実際に体を動かしゲームをし、夢先生と夢についてのトークの時間を設け、「夢を持つこと、それに向かって努力することの大切さ」などを学ぶ事業です。成果として、夢や目標を持って日々努力したり、一生懸命物事に取り組んだりする児童生徒の育成に寄与しており、トップアスリートとの出会いの新鮮さ、貴重さから、「本物」との出会いがもたらす刺激、視野の広がり、自己肯定感の高揚などが挙げられるということです。今後の課題として、スポーツ分野以外の「本物」に触れる機会の検討をしているということです。

かづのふるさと・キャリア教育推進事業では、職場体験学習（夢探究プロジェクト）や地元企業人による講演、鹿角の美しい自然や人々との触れ合いから、ふるさとの良さを体感し、キャリア教育の視点を加味した、ふるさと学習（ふるさと生き生きネットワーク事業）などにより、勤労観や労働環境、社会・経済の仕組み等について理解し、児童生徒の社会人・職業人としての自立を促す機会を充実させ、将来、社会人・職業人として自立していくために必要な意欲・態度や能力を身に着けるとともに、ふるさと鹿角を自分が支えようとする強い気概を持った子供たちを育成するということです。

夢探究プロジェクトの成果として、多くの事業所の受入協力があり、このプロジェクトの活用が多かったこと。また、課題としては、事業内容を各小中学校に理解してもらうために、専門的な担当職員の配置とそれに伴う継続的予算措置、受入協力のある事業所の周知などが挙げられるということです。

ふるさと生き生きネットワーク事業では、郷土を大切にす心情の醸成、自分の地域の良さや可能性の実感、将来を切り拓く態度等の育成や、地域・企業等の連携により、児童生徒の意見や考えを反映した商品化の結果につながった点を成果として挙げられ、今後は同じ学区内での連携の充実や活動内容のマンネリ化が課題として挙げられるということです。



鹿角市の取り組みの中でも特に興味深かったのは、かづの夢創造 school 事業のトップアスリートから児童生徒が直接学ぶ機会があるという点で、この取り組みを通じ、小・中学校のアンケートにおいて、「夢を持っている」と回答した児童生徒が20%程上昇している点からもこの事業の成果が見受けられます。鹿角市では、子どもが夢を抱けることができる環境を作っているだけでなく、郷土を大切にす、鹿角市を支えていく人材育成にも力を入れており、少子化が進む中で、矢板市においても考えていかなければならない課題の一つではないかと認識させられました。